

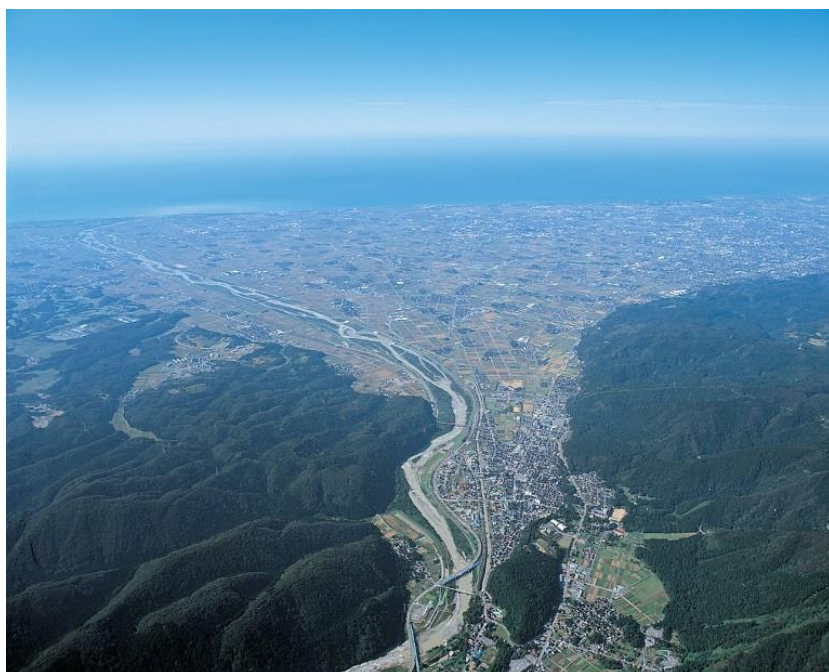
埋蔵文化財企画展

とみおく 富奥のあゆみ

野々市市の中南部に位置する富奥地区は、^{てどりがわ}手取川
^{せんじょうちせんおうぶ}扇状地扇央部の東にあり、14の集落で構成されます。

この地区における人々の^{いとな}営みは縄文時代に始まり
ますが、本格的な開発が始まるのは^{あすか}飛鳥時代です。以
後、現代まで富奥の歴史は扇状地開発の歴史でした。

今回の企画展では、富奥防災コミュニティセンターが建設されたことを記念して、これまでの発掘調査によって明らかになった富奥地区の歴史を、出土遺物等を通して紹介します。



手取川扇状地

※富奥の地名は、江戸時代にこの地域の所属した「^{とがし}富樫組」「^{なかおく}中奥組」からそれぞれ一字ずつ採って名づけられました。富奥村は明治22年(1889年)に成立し、昭和30年(1955年)に当時の野々市町と合併しました。